愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	心理演習		
担当者(Instructors)	吉村 道孝	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義では、心理支援の基本である心理面接（カウンセリング）の態度や技法について、実践演習や模擬カウンセリングを通して心理支援の基本的な知識・技能を修得することを目的とする。自分自身の特徴や生活について振り返るとともに、毎回ロールプレイングを通してクライエント側（被援助者）・カウンセラー側（援助者）双方で感じることや起こりうる変化についてに経験的に学ぶ。 また、心理支援において重要な倫理的課題や相談者への関わり方、話し方、多機関・多職種との連携における情報共有の重要性と留意点の理解など、関連する要因についても学ぶ。 なお、本講義は対面で実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	本講義では、心理支援の基本である心理面接（カウンセリング）の態度や技法について、実践演習や模擬カウンセリングを通して心理支援の基本的な知識・技能を修得することを目的とする。自分自身の特徴や生活について振り返るとともに、毎回ロールプレイングを通してクライエント側（被援助者）・カウンセラー側（援助者）双方で感じることや起こりうる変化についてに経験的に学ぶ。 また、心理支援において重要な倫理的課題や相談者への関わり方、話し方、他機関・多職種との連携や地域連携、チームアプローチにおける情報共有の重要性と留意点の理解など、関連する要因についても学ぶ。 なお、本講義は対面で実施する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンスと心理援助者としての職業倫理	本授業のガイダンス及び、公認心理師としての職業倫理や法的義務を踏まえて、専門職としての心理支援の意義について学習する。	□
第2回	カウンセラーとしての自己理解	色々な状況や概念に対して、自身の考え方や対人コミュケーションにおける癖や見方の偏りについて学習する。	□
第3回	心理面接スキル１	心理面接において、クライエントの気持ちに共感し、共感できた気持ちを返す純粋性のスキルについて学習する。	□
第4回	心理面接スキル２	心理面接において、沈黙の扱い方や、カウンセリングを展開するスキルについて学習する。	□
第5回	心理面接スキル３	支援を要する者（クライエント)の理解と援助ニーズを学習し、葛藤の明確化のスキルについて学習する。	□
第6回	箱庭療法を体験する１	アセスメント（心理検査）としての箱庭療法、心理療法としての箱庭療法を体験する。	□
第7回	箱庭療法を体験する２	実施した箱庭療法について、具体的支援方法についてグループ内において検討する。	□
第8回	心理面接の構造と支援計画の作成	心理支援に関連する多職種連携や地域連携・地域支援について実際の事例を見ながら現実生活を視野に入れたチームアプローチとしての心理支援計画について学習する。	□
第9回	心理面接における応答	クライエントが語る内容をどのように理解し、どのように応答すべきかについて学習する。	□
第10回	心理面接のプロセス	心理面接の開始から、アセスメント（心理検査）や同意の取り方、フィードバックの方法など、どのように進行し、展開していくのかについて学習する。	□
第11回	逐語記録から心理面接を理解する	実際の心理面接の事例や逐語録をみながら、面接で何が起こっているのかについて学習する。	□
第12回	心理面接の模擬実践1	これまで学んだことを踏まえ、ペアになりで心理面接の模擬実践と記録を行う。	□
第13回	心理面接の模擬実践2	心理面接の模擬実践１を心理面接記録として文書にまとめる。	□
第14回	心理面接の模擬実践3	心理面接の記録をまとめて、全体で事例検討をおこなう。	□

第15回	心理面接の模擬実践4	心理面接の記録をまとめて、全体で事例検討をおこなう。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習：日常生活の中で感情が惹起された出来事、前回の授業のあと感じたこと・考えたことをまとめる。（2時間） 事後学習：講義を受けて、それをどのように自分の生活に活かすことができるかをまとめる。（2時間）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回講義後に小レポートを実施する。次回の講義の冒頭で全体で共有する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	自分のコミュニケーションの特徴を理解した上で、カウンセリングで他者への傾聴や気持ちや考えへの共感、受容をすることができる。 倫理的な課題に配慮しながら、多機関・多職種連携において必要な情報のまとめ、伝達について考えることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	0%	100%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

演習科目であるので、グループワーク・ペアワークなどの取り組む姿勢を「その他」として評価とする。また、毎回振り返りや小レポートをおこない、理解力や達成度を「授業内試験」として評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内容に応じて資料を配付する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業内で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		